

■源信(恵心僧都) 学僧。浄土教家。「往生要集」を撰述し、公家社会に対応する地獄極楽イメージ鮮明な仏教を創始。

げんしん

・・・・・・ 942= 大和国当麻郷に生まれ、父の名は卜部正親、母は清原氏。

京群盗横行・ 948= 6歳：父の死にあい、

・・・・・・ 950= 8歳：\_比叡山に登る。

・・・・・・ 951= 9歳：

・・・・・・ 954=12歳：\_得度受戒し、良源の門下となって経論の研鑽に努め、

宋建国・・・・ 960=18歳：

安和の変・・・・ 969=27歳：

・・・・・・ 973=31歳：\_広学堅義となり、内供奉十禅師に補される。

\_青年時代の著述とみられるものに「六即義私記」があり、

・・・・・・ 978=36歳：\*撰述年時のわかる最初の著書「因明論疏四相違略註釈」3巻が、のち宋の慈恩寺弘道の門人に贈られるなど、その思想著述には優れたものがあつたが、

・・・・・・ 981=39歳：「阿弥陀仏白毫観法」1巻を著わす。

往生要集・・ 985=43歳：\*代表作である「往生要集」3巻を撰述。本書は極楽往生に関する経論の要文を選集し、念仏を勧めたもので、のちの浄土信仰に決定的な方向を与えることになる。

花山天皇出家 986=44歳：\_同書を宋の周文徳に贈り、文徳は天台宗清浄寺の経蔵に納めたが、宋においても高く評価された。この年から首楞嚴院で念仏結社たる二十五三昧会をはじめ、

・・・・・・ 987=45歳：

尾張百姓訴え 988=46歳：\_「十二箇条起請」を作って、同志の平生および臨終の作法を定める。二十五三昧会につながるものとして、横川の花台院では迎講がはじめられ、在俗の念仏者が多く集まり、横川には念仏集団が形成される。

藤原定子入内 990=48歳：前天台座主尋禅の遺言によって、定心房四季講の運営を委託される。

女院号始・・ 991=49歳：宋よりの返書及び経巻が来る。

・・・・・・ 994=52歳：「尊勝要文」を著わす。

花山法皇事件 996=54歳：

二后並立・・ 1000=58歳：\_法橋に叙せられ、

和泉式部日記1004=62歳：\_権少僧都に進んだが、当時の比叡山の世俗化と墮落の風潮を嫌い、

・・・・・・ 1005=63歳：「大乘対俱舎抄」5巻を著わす。

・・・・・・ 1006=64歳：\*辞退、名利を避けて横川に隠栖し、行法と著作に励んだ。「一乗要決」3巻を著わす。

・・・・・・ 1007=65歳：「観心略要集」1巻。

和漢朗詠集・ 1012=70歳：この前後から\_病で起居が不自由となるも、なお念仏を怠らず

・・・・・・ 1013=71歳：「俱舎論願疏正文」1巻。

源氏物語・・ 1014=72歳：「阿弥陀経略記」1巻。

道長太政大臣1017=75歳：\_没した。